

地域の魅力  
発信コーナー

岩室温泉「無匠庵」(むしょう庵ともいう)



北国街道が通る岩室温泉街の一角に黒屏を巡らせた「無匠庵」がひととき目を引く。

かつて、岩室甚句で知られた小竜さんの住まい「玉家」という芸妓置屋で、築百年の趣を残したまま吉川花意さんが能面アトリエとして生まれ変わらせたもの。「無匠庵」とは「匠は不在で無精に暮らし、気楽に遊ぶ」という心から生まれたと語る。現在は当時の風情と能面との融合が訪れる人を魅了し、「芸妓置屋」という趣を添えて、まちの歴史を伝えている。



吉川花意さん  
1944年、旧岩室村和納に生まれ、現在は新潟市中央区在住。各地で面打ちを指導する県内唯一の能面師。

こんなところに美術館があった!!

中之口地区の姥島に小さな美術館。その名も「小野塚美術館」(故)小野塚喜一氏が当家の敷地内に建造したものであるが、現在は喜一氏の奥様が管理されて、来館者をもてなされている。ぜひ一度、身近な美術館で芸術に触れてみてはいかがでしょうか。

問い合わせ先 ☎025-375-3160



自治協委員選出団体の活動紹介 西蒲区老人クラブ連合会の活動を知っていますか?

西蒲区老人クラブ連合会は、「奉仕」「健康」「友愛」の三位一体で活動しています。また、総務部会・文化教養部会・保健厚生部会・若手部会・女性部会から成り立ち、日々、年間事業計画に基づいた活動を行っています。

主な活動実績としては、2018年に開催された「ねんりんびっく将棋交流大会」に、市老人クラブ連合会巻地区協議会から新潟市代表として参加しました。

西蒲区老人クラブ連合会では、ともに「楽しみ・学び・助け合う」会員を募集しています。区内にお住まいの60歳以上の方ならどなたでもお申込みいただけます。

一緒に活動してみませんか?入会やボランティア要請等のお問合せは下記までお願いします。

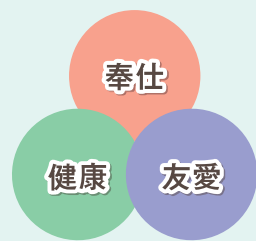
問い合わせ先

- 巻地区 梅沢 春夫 ☎0256-72-4577
- 西川地区 橋本 佑治 ☎0256-88-5116
- 瀧東地区 勝山 茂之 ☎0256-86-2869
- 中之口地区 西村 武 ☎025-375-3595
- 岩室地区 土田 正榮 ☎0256-82-4359

(レポート:西蒲区老人クラブ連合会 会長 土田 正榮)



ねんりんびっく富山大会



募集します 「ホットコーナー」と「皆さまの声」

◆詩、川柳、お子さまやペットの写真など、自分が「ホット」するものを、タイトルや一言コメントを添えて投稿してください。◆また、地域に関する課題などで、区自治協議会で協議してもらいたいことがありましたらご意見をお寄せください。◆いずれも事務局(広報紙第一面に掲載)まで、住所・氏名(ペンネームがあればペンネーム掲載)・連絡先をお書き添えの上、郵送または電子メールにてお送りください。

編集後記

じちきょう第12号は、一面に角田浜に開設したキッズ体育塾「smile gym」を特集しました。区内外から多くの方が練習に汗を流しているそうです。今年は東京オリンピックが開催されます。近い将来、「smile gym」からオリンピック選手が誕生するかもしれません。乞うご期待!

広報部会では、家族で読んでいただける身近な広報紙を目指し、地域のつながりを大切にして取り組んでいきたいと思っております。(川島 ユリ)

西蒲区自治協議会通信

じちきょう

第12号 令和2年3月15日発行

発行/西蒲区自治協議会  
編集/西蒲区自治協議会広報部会  
事務局/西蒲区役所地域総務課  
〒953-8666 西蒲区巻甲2690番地1  
TEL0256-72-8161/FAX0256-72-6022  
E-mail chikisomu.nsk@city.niigata.lg.jp

西蒲から羽ばたけ!  
~世界を目指してレスリング道場が誕生~



令和元年11月14日、西蒲区角田地区に新たなレスリング道場「Smile gym」がオープンしました。そこではレスリングチーム「巻っず」の子どもたちがトレーニングに励んでいます。オーナーの本名栄仁さん(西蒲区在住)は巻っずの監督。30名以上の子どもたちが在籍しています。

以前は区内の公民館等を利用して練習を行っていましたが、「強くなるため」に独自の練習場を開設。設立にあたっては、地域の協力があつたとのこと。



今後の目標はオリンピック選手を出すことですが、レスリングを好きになって、長く続ける子が増えることを願っています。

オーナー 本名 栄仁さん

子どもは地域の宝。トレーニング等に角田浜トレイルもぜひ活用していただきたいです。ここから将来オリンピック選手が選出されることを期待しています。



設立に協力した  
角田浜自治会長 阿部 高吉さん

7月に開催を控えた東京オリンピック。スポーツの話題が多い今日。全国レベルの「巻っず」のトレーニングを覗いてみました。そこには、大人と同じ練習メニューを真剣にこなす小学校低学年男女の子どもたち。ほぼ暖房のない道場で汗だくのトレーニング。スパーリングになるとギラギラした目で、大人もびっくりの本気モードに…!もしかすると、この子たちは……!! (レポート:西蒲区スポーツ協会事務局 若杉 松男)

問い合わせ先:Smile gym 住所:西蒲区角田浜1293番地  
☎090-7801-6886 HP:https://www.niigatasmilegym.com/ メール ni7ei2@bma.biglobe.ne.jp

総務部会 ～アンケート結果をとりまとめました～

総務部会では、8月に開催した、世界的ピアニスト辻井伸行さんを育てたお母さま、辻井いつ子さんの講演会で実施した、来場者アンケートを取りまとめました。講演内容の感想では、「とても良かった」「良かった」を合わせると約98%になり、「子育ての悩みは多いが前向きになれた」「子育てに参考になる事がたくさんあった」という感想がありました。これからも、地域の皆様に寄り添える活動を進めていきたいと思えます。



保健福祉部会 ～にしかんウォーキングチャレンジ 当選者決定!～

保健福祉部会では、～はじめの一步、つづける一步～[にしかんウォーキングチャレンジ]を計画し、チャレンジを9月から11月の3か月間としました。終了後には多くの方より手帳を提出いただきありがとうございました。12月の部会では、手帳を提出した方へのプレゼントキャンペーン当選者の抽選を行い、21名の方を決定しました。後日、提出された手帳とともに、個別のアドバイス、当選者には当選景品を同封し郵送します。

「人生100年時代に入った」と言われています。平均寿命は女性ですが、健康寿命は、男性72.14歳、女性74.79歳と男女の差が少ないとの数字が出ています。このことについて認識を改め、「～はじめの一步、つづける一步～」を実践、継続することで健康寿命の延伸に少しでも繋げることができると思えます。それには、まずは健康であることが大切です。人との会話を楽しみ、自分の体は自分で守ることをモットーに、日々笑顔で生活しませんか。



多数の中から抽選しています

まちづくり・産業部会 ～西蒲区まち歩きガイド 養成講座を開催しました～

身近な「まち歩き」を通して西蒲区の魅力を広く発信しようと、西川・潟東地域で「ガイド養成講座」が展開されました。10月には24名のガイドが誕生し、今後の活動が地域の活性化に繋がることに期待が膨らみます。



潟東まち歩きの様子

西川まち歩きの様子

12/26 第2回西蒲区教育ミーティングが開催されました

テーマ 家庭、地域、学校の連携～西蒲区の魅力を活かしたこれからの教育のために～

当日は、教育委員はじめ教育行政担当者、区役所関係者、自治協委員の計33名により、グループディスカッションで意見交換を行いました。

少子化・人口減少などの地域課題を踏まえながら、未来を担う子どもたちの健全育成のために家庭・地域・学校はどのように連携協働していけばよいのか話し合いました。

西蒲区における三者連携の実情や課題、活動のアイデアを中心に出席された意見の中から、その一部を紹介します。



自治協委員の意見から

- 子どもの数は減っているが、地元の祭りなどの地域行事への参加は多い。学校へのボランティア参加も活発である。
- 小学校では学校行事等への地域住民の参加が多いが、中学校になると足が遠のき関係が薄くなる傾向がある。福祉バスを活用して高齢者を学校行事に参加してもらうなど、交流を促進するアイデアが求められる。
- 「学・社・民の融合による教育」が地域住民にあまり知られていない。活動を「見える化」して地域住民をもっと呼び込む必要がある。
- 日本の家庭のあり方が変化した。核家族化が進み、かつて大家族の中で体験していたことができなくなっている。三者連携によってそれを補う活動ができるのではないかと。
- 地域と学校のつなぎ役である地域教育コーディネーターの活動が、地域力や教育力を高めていくうえで大切な役割を果たしている。
- 世代間のズレを感じる。地域の活動も見直しをする時期にきている。活動を継続し、盛り上げていくための工夫が求められる。
- 少子化・人口減少により、祭りなどの地域行事が縮小されている。それに伴い、関係保護者への負担も増大している。
- 土曜、日曜は子どもの習い事などがあるため、地域の活動に人が集まりにくい。
- 学校の先生も忙しく、連携を進めていくことが過重負担につながってしまう。
- 家庭＝PTA。地域とPTAのかかわりがよくわからない。学校と地域の結びつきに比べ、「家庭」が見えてこない。
- 子どもたちが地域に残ったり戻ったりするためには、「地域の宝」などについての理解が大切。「まちあるき」などの活動を活かして、学校の学習活動と連携するとよいのではないかと。

教育委員の意見・感想から

- 人口減少が進む中で、活動を継続、発展させていくためには、大人の世代交代も重要になる。地域教育コーディネーターなど連携・協働の要となる立場の方が、次世代につないでいくことを視野に入れて活動していくことが大切になってくる。
- 地元愛ある方々が、その思いを子どもたちに伝えていくことによって、次世代の後継者が育つと思う。これからも共に子どもたちの将来を見据え、取り組んでいきたい。
- 地域住民と子どもたちがお互いの顔が見える関係から地域への愛情や関心が生まれ、「地域の人と一緒に協力していこう」という気持ちが育ち、それが活動につながっている。
- 家庭、地域、学校が共通の目的意識を持って取り組んでいくことが大切。学校を含めた「地域全体での子育て」を目標としたい。



\*教育ミーティングの概要については、新潟市のホームページにも掲載されています。

11/28 南区・西蒲区自治協議会合同委員研修開催

「子ども食堂」から学ぶ共食の大切さ

11月28日に、南区・西蒲区自治協議会合同委員研修会を行いました。

西蒲区自治協議会委員でもいらっしゃる、新潟県立大学人間生活学部健康栄養学科の村山伸子教授から、「子ども食堂について～その背景と現状～」をテーマに講義いただき、事例発表として、西川地区で「おひさま子ども食堂」を運営されている、田子幸子さまに「おひさま子ども食堂の歩み」について、お話しいただきました。

研修後委員からは、子ども食堂の認識が深まり、共食が子どもたちの成長に大切な事がわかったという声が多く聞かれました。

